

風物詩

野崎まいり

『♪野崎まいりは 屋形船でまいろう どこを向いても 菜の花ざかり♪』をお聞きになったことがありますか？

今春はぜひ一度「野崎小唄」を聞きに大東市の「野崎まいり」にお越し下さい！



大阪の東部、生駒山脈の麓、JR学研都市線野崎駅から東へ800mの位置に野崎観音があります。一般に「野崎の観音さん」とよばれている福聚山慈眼寺は曹洞宗の禅寺です。今から1300年ほど前に行基が観音様のお姿を刻み、この地に安置されたのがこの寺のはじまりと伝えられています。

毎年5月1日から8日までの「無縁経法要」を「野崎まいり」といい、期間中はお参りの人々で大変賑わいます。駅前からすぐの参道には多くの露天商が所狭しと立ち並び、昭和の初めに東海林太郎さんが歌って大ヒットしました軽快なリズムの「野崎小唄」が流れ、休日にもなりますと家族連れや老若男女の方々に、参道は人、人、人で溢れかえります。



江戸時代の中頃、庶民の間で社寺詣でが盛んになり出した頃、お染久松をモデルにした、近松半二作



の人形浄瑠璃「新版歌祭文」に野崎観音が登場（野崎村の段）すると一

躍有名になり、人気を集めました。また、上方落語「野崎まいり」には、野崎観音に船でお参りする人と堤を歩いてお参りする人が互いに罵り合ったことが面白おかしく語られています。

現在は、「野崎小唄」の中で歌われているような一面菜の花が咲き誇った中を屋形船が行き来した面影は残ってはいませんが、当時の人々が春のピクニックを兼ねて息抜きに繰り出したことに思いを馳せ、ぜひ一度とは言わず何度でも「野崎まいり」にお越し下さい。

野崎観音のすぐそばにある「野崎まいり公園」においても、いろいろなイベントを企画していますので、こちらにもぜひお越し下さい。



● お問い合わせ先 ●

大東市市民生活部産業労働課

TEL：072-872-2181（代表）